

一人一人の進路実現に向けた、きめ細かい指導。
部活動や奉仕活動への参加を通じて、豊かな人間性を育成。
地域社会に信頼される学校づくり。
それが白根高校のスピリットです。

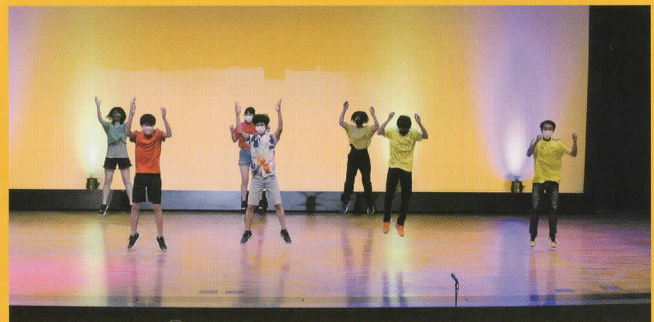
Shirane 挑戦 Spirit

CONTENTS

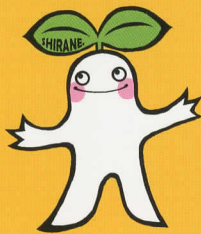
- P.01 白根祭とインターンシップ特集号
P.02 第38回白根祭 咲～さかせろ新たな花～
P.03.04 インターンシップ
P.04 突撃インタビュー



白根祭とインターンシップ特集号

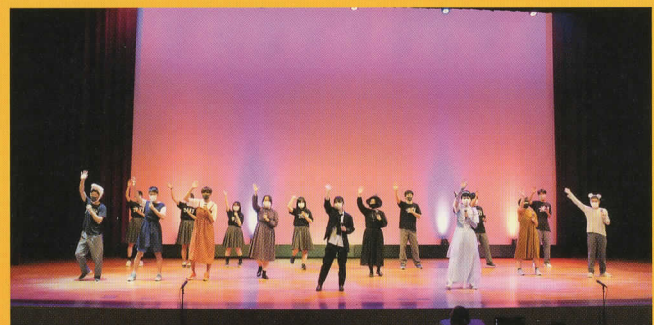


コロナ禍で制約のある生活。
しかし今だからこそ新たなことに挑戦し、より良い白根祭を作り上げたい。
そんな願いの花が咲いた。



咲 ~さかせろ新たな花~

白根っ子





第三十八回白根祭を終えて

生徒会・保健・環境主任
風間功仁子

「咲くさかせろ新たな花々」というテーマを掲げ、二年ぶりに、しかもコロナ禍で行う学園祭を生徒会本部の生徒たちは新たな挑戦と捉えていました。一日目の舞台発表部門は、小規模校であるがゆえに、観客席が半分に制限されている桃源文化ホールを使用することができました。しかし、一メートル離れた演技、一つ置ききの座席、大きな声を出しての声援禁止など、やはり例年と違う状況でした。そんな中でも生徒たちは、合唱の代わりにストンプを行ったり、ペンライトで声援を送ったりするなど、制約の中でも工夫し楽しんでいました。そしてホールの美しいライト下で演技ができることに喜びを感じていました。

二日目は本校で行われました。オープニング行事の教頭先生によるドラム演奏、有志作成のビデオやダンス、さらにS1というパフォーミング大会は大いに盛り上がりました。体育館は穏やかな笑い声に包まれ、二年ぶりの学園祭を楽しんでいる様子が伝わってきました。教室展示も密にならないようムやフोटスポット、乗り物に乗るなど体験型の展示が行われました。模擬店もできせんでしたし、密閉空間になるためお化け屋敷もできせんでしたため、皆が楽しめる工夫がなされていたと思います。生徒会本部役員の生徒たちは、コロナ禍対応のルール作りにより、昼食会場の準備や使用会場・マイクの消毒などいつもと違う学園祭の準備・運営に翻弄されましたが、それでも桃源文化ホールで華やかな発表ができたこと、全校生徒が終始笑顔で学園祭を楽しんでくれたことに満足していました。そして何より、新たなことに挑戦しながら第三十八回白根祭が無事開催できたことが大きな自信となったのではないのでしょうか。

第38回 白根祭

- 主な内容**
- 1日目(桃源文化ホール)
 ○吹奏楽部・チャリーディング
 ・演劇部発表
 ○1～3年 クラス舞台発表
 1年 ストンプ
 2年 ダンスコンテスト
 3年 創作舞台パフォーマンス など
- 2日目(白根高校)
 ○オープニング(有志ダンス・ビデオなど)
 ○S1
 ○文化部と委員会展示・発表
 (書道部・美術部・写真部・自然科学部・華道部・茶道部・図書委員会)
 ○1～3年 クラス展示
 1年 テーマ:HAPPY
 2年 テーマ:マリオの世界
 3年 テーマ:咲くさかせろ新たな花々
 ○有志カラオケ大会



咲くさかせろ新たな花々



咲くさかせろ新たな花々

生徒会長 馬場 麻綸

第三十八回白根祭「咲くさかせろ新たな花々」。この白根祭は大盛況のうちに幕を閉じました。今年度は二年ぶりの開催ということもあり、多くの事に挑戦してきました。一番大きな挑戦はクラスTシャツです。これは以前から全学年着用したいという要望が出ており、今年度初めて実現することができました。全学年でのTシャツ着用が実現できたこともあり、さらに学校全体で盛り上がる様子が見られました。他にも様々な新しい事に挑戦し、初めての事に不安を感じることもありましたが、全校生徒が白根祭を楽しんでいる声を聞くことができました。ここまでやってきて良かったです。この白根祭を生徒の皆さんや先生方、そして生徒会本部の皆さんと一緒に作り上げてこられたことは、私にとって最大の誇りです。今回の白根祭が皆さんにとっても良い思い出に残る二日間になっていた嬉しです。今年は、未来へ繋がるものを咲かせることができました。二日間になったと思います。



白根祭を終えて

実行委員長 諸平 杏



今年度はコロナ禍の中でしたが、全校生徒一人ひとりが感染予防対策に協力してくれたおかげで、白根祭を開催することができました。改めて、ご協力ありがとうございました。

一日目は桃源文化ホールでの舞台発表でした。一年生はストンプという初めての試みでしたが、どのクラスも完成度が高く素晴らしい発表でした。二年生のダンス発表は、衣装などもこだわっており幅広いジャンルの曲で踊っていました。観客はペンライトを振るなどして非常に楽しむことができました。三年生の劇は、クオリティの高い作品ばかりで、思わず見入ってしまうような素敵な発表でした。二日目は、クラスごとに各学年のテーマに沿った展示を行いました。テキヤや屋台など、楽しめる企画がたくさんありました。学年関係なく学校全体で盛り上がるということができました。また、クラスで協力して展示を作り上げたことで絆も深まったと思います。来年度はさらに今年度の反省を活かし、よりよい白根祭を作り上げていってほしいです。



白根高校のインターンシップ

生徒一人ひとりに勤労観・職業観だけでなく
社会観も身につけることができる機会に

進路係インターンシップ担当
雨宮米三子

成人年齢引き下げの施行が来春からとなり、十八歳の誕生日から順次成年に達していくのが、この二年の生徒達です。キャリア教育の重要性はますます高まっており、生徒たちが社会的・職業的に自立できるように、勤労観や職業観の理解を促し、主体的に進路を決定する能力・態度の育成が求められています。

白根高校の特色の一つとして定着しているインターンシップですが、本年度は七月二十八日（水）から三十日（金）の三日間を中心に行われ、百を超える協力企業の中から四十四社の企業・事業所に了解を得まして、二年生一・二七名が参加をさせていただきました。三日間という短い期間ではありましたが、生徒たちは実際に働くことで、仕事の厳しさややり甲斐、社会人に求められる資質など、多くのことを学んだのではないかと思います。

インターンシップは、求められているキャリア教育の一環として、自身の適性や将来について考える良い機会でもあり、今の自分に足りないものは何か、これから何を学ばなければならぬかと知るきっかけにもなります。今回の就業体験を通し、生徒たちが社会や職業に対する認識を深め、そこへ繋がる学びの重要性を再認識するとともに、人間性についても成長することを切に願っております。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止せざるを得なかったインターンシップ行事でしたが、本年度は生徒の感染防止に努めた健康管理の徹底、ご協力いただきました企業・事業所の皆様の対策等の多大なご配慮により、無事に実施できました。ことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「働く」ということに接する中で、自分自身の人生を見つめる一つの大きなきっかけに

二年 内藤 珠稀

私は柳正堂書店様のところで行ったインターンシップを行いました。

インターンシップ初日、書店の仕事をまず雑誌や新書の品出しから始まります。雑誌に付いている付録は、本屋で一つひとつ付けているというところにとても驚きました。その後は、売り場に出て棚の整理や掃除を行いました。そのときに、お客様からのお問い合わせに焦ってしまふこともありました。午後は、店長の青柳さんに書店の現状や本が仕入れられるまでの流れなどを詳しく教えていただきました。

二日目、まずは雑誌の付録付けを行いました。紙をよく見て付け間違えの無いよう慎重に作業しました。その後は、コミックシュリンクという、漫画などにカバーをかける作業を行いました。しわにならないようにするのが難しかったです。午後は、長く売れていない本の抜き取り作業を行いました。私は、絵本の担当でした。リストを見ながら一冊ずつ探すのでとても大変でしたが、その分見つけた時の達成感が大きかったです。

三日目、午前の作業は一日目と同じでした。そのため、よりスムーズにかつ正確に作業を行うことができました。お客様のお問い合わせにも、分からないことは他のスタッフに引き継ぎ、丁寧に対応することができました。また、一日目は緊張してしまい、挨拶の声が小さかったのですが、声の大きさと笑顔を意識して挨拶をしました。午後は、自分の紹介したい本のPOPを作成しました。本の魅力を伝え、お客様に興味を持ってもらえるようにするのはとても難しかったです。そのため、伝えたいことを大きい文字にしたり吹き出しを付けるなど工夫して作成しました。

三日間のインターンシップを通じて、責任について学ぶことができました。日常生活の中で感じるものとは違い、少しのミスでお店に迷惑をかけてしまうので緊張感をもって仕事に取り組みました。社会人としての責任を、身をもって学ぶことができます。とても良い経験になったと思います。この経験を進路実現に生かしていきたいと思えます。



私はホンダショップ山梨様のところでインターンシップを行いました。ホンダショップ山梨様は車の販売、点検整備、清掃をしています。

2日間で私は全く別の仕事をし、様々なことを教えていただきました。直接お客様に関わる仕事ではありませんでしたが、お預かりした車なのでとても真剣に仕事をしました。

1日目、最初に工場の清掃をし、その後、洗車の手伝いをしました。洗車液の取り扱いや洗う順番など教えていただき、間違えないよう気をつけました。

洗う時も流すときも上から行い、タイヤは最後にスプレーをして拭き上げます。

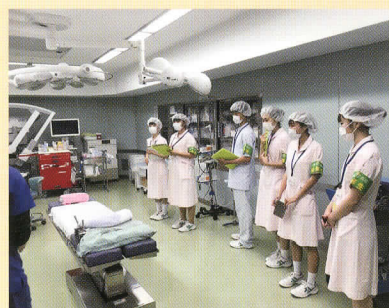
高圧洗浄機やエアークリーン機などを用いるためうまく使いこなすことができず、1、2台目はとても時間がかかってしまいました。しかし、台数を重ねるにつれて慣れていき、徐々に時間を短縮することができました。

午後にはトラックの洗車も行いましたが、大きいため高い所は洗いがらかったです。1日に6台の洗車を行いました。

2日目、工場の掃除をした後、農耕車のエンジンルームを解体しました。エンジンルームを初めて見ました。車と違い、紐のようなものを引っ張ってエンジンをかけます。できるか不安でしたが、部品を外していきました。さびもあり、外すのにとても力がいりました。時間があったので組み立ても行いましたが、ねじの場所や線の位置が分かりにくく、解体の倍くらいの時間がかかりました。作業は工場内で行うためとても暑く、作業する方大変さがわかりました。

車に快適に安心して乗れるのは、多くの方々が特別な技術と車やお客様への思いを持ち、携わってくださったためだとわかりました。

この2日間で私は働くことの大変さやお客様からの信頼の得方を学ぶことができました。インターンシップでの経験を活かして、進路実現につなげていきたいと思っています。



突撃インタビュー!

～白根高が誇る先生～



自己紹介をお願いします!

長谷部菜穂子(はせべなほこ)といいます。今年は1年生で世界史を、2・3年生で日本史を担当しています。

復帰されて、現在の白根高校の生徒の印象はいかがですか?

以前と変わらずに人懐こい生徒が多く、さらに挨拶がさかんになっていて驚きました。学校行事の際にも進んで動ける生徒が増えたなと感じています。

長谷部先生はどのような毎日を送られていますか?

日中は先生をして、家に帰ってからは1歳と2歳、2人の娘のお世話をしています。毎日へとへとですが、長女から「ママ、ちゅち(←「すき」がまだ言えない)」と言ってもらえれば、どんなに疲れていてもがんばっちゃいます。

どうして日本史の先生になろうと思ったんですか?

単純ですが、小さい頃、家にあった日本史のマンガを読んだことで日本史が好きになりました。日本史に関わる仕事ができればいいなと、先生を目指しました。

最後に、生徒達へメッセージをお願いします。

何かと制約が多いなかですが、せっかくの高校生活、めいっぱい楽しんでください!悩みを抱えて苦しい時期も、一時のこと。いつか笑える日が来ます。

インタビューを受けてくれたのは「長谷部菜穂子先生」

今回インタビューをお願いしたのは、今年4月に育児休業から復帰した長谷部先生です。

